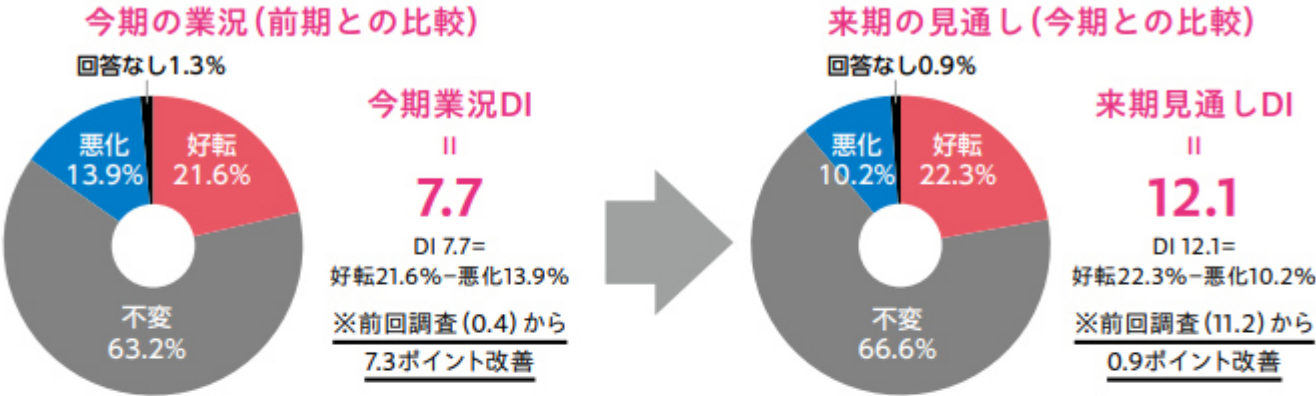


経済状況データ（DI）（2024年10月～12月期）

調査時期：2024年12月23日～翌1月17日
対象期間：2024年10月～12月期、及び
2025年1月～3月期見通し
調査対象：東京商工会議所世田谷支部
会員（3,565社）
回収状況：合計462社（回収率13.0%）

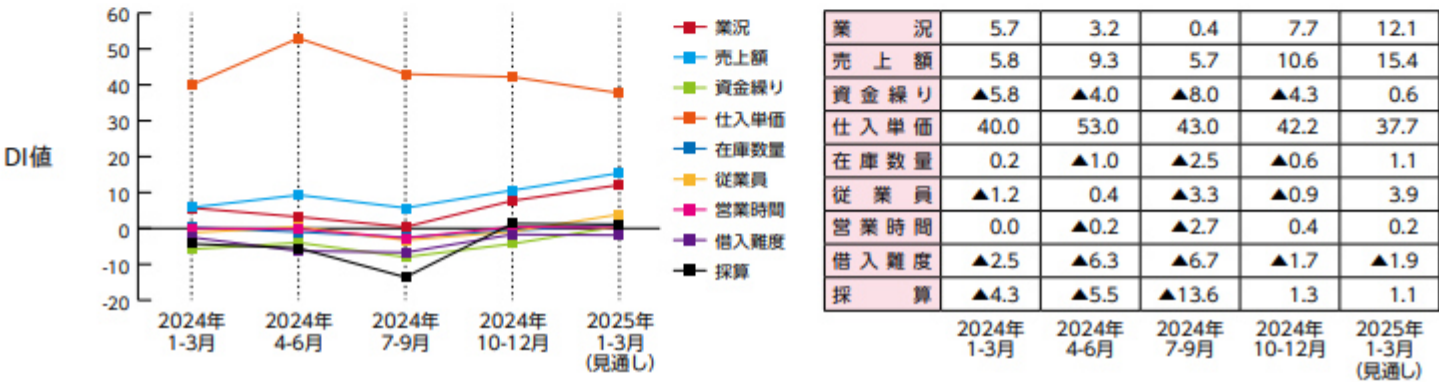
業況

今期（2024年10～12月期実績）の業況DIは、+7.7ポイントで前期から+7.3ポイント改善した。
来期の業況見通しDIは+12.1ポイントとなり、前回調査より+0.9ポイント好転する見通し。



主な指標別の傾向

今期は、仕入単価+42.2(前期比▲0.8)のみポイントが減少し、それ以外の指標はポイントが増加した。最も増加したのは、採算+1.3(同+14.9)で、約15ポイントと大幅に増加した。次いで、業況+7.7(前期比+7.3)、借入難度▲1.7(前期比+5.0)、売上額+10.6(同+4.9)等は4ポイント以上増加している。来期見通しでは、資金繰り+0.6(同+4.9)、売上額+15.4(同+4.8)など5指標でポイントが増加し改善が見込まれる。



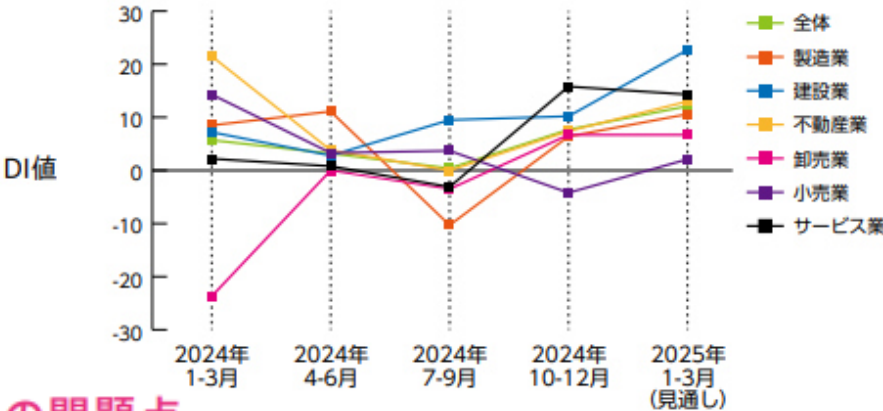
※DI (Diffusion Index) …DI(%)=「良い」「増加」等企業割合-「悪い」「減少」等企業割合。各項目について、「増加」「好転」とする企業の割合から、「減少」「悪化」した企業の割合を差し引いた値。プラスは全体として「増加」「好転」したとする割合が多く、景気が上向きの傾向を示す。マイナスは景気低迷の傾向を示す。

※概況（好転⇔悪化）、売上額（増加⇔減少）、資金繰り（好転⇔悪化）、仕入単価（上昇⇔低下）、在庫数量（増加⇔減少）、従業員（増加⇔減少）、営業時間（延長⇔短縮）、借入難度（容易⇔困難）、採算（好転⇔悪化）

経済状況データ（DI）（2024年10月～12月期）

業種別の 動向

今期の業種別DIは「小売業」▲4.2(前期比▲7.9)のみ悪化している。大きく改善したのは「サービス業」+15.8(同+18.9)、「製造業」+6.4(同+16.7)、「卸売業」+6.7(同+10.2)の3業種で10ポイント以上改善した。来期は「サービス業」+14.3(当期比▲1.5)のみ減少、それ以外の5業種は増加する見通し。なかでも「建設業」+22.7(当期比+12.5)は10ポイント以上増加する見通し。



全	体	5.7	3.2	0.4	7.7	12.1			
製	造	業	8.5	11.1	▲10.3	6.4	10.6		
建	設	業	7.2	2.8	9.5	10.2	22.7		
不	動	産	業	21.5	3.8	0.0	7.4	13.0	
卸	売	業	▲23.7	0.0	▲3.5	6.7	6.7		
小	売	業	14.3	3.3	3.7	▲4.2	2.1		
サ	ー	ビ	ス	業	2.2	0.8	▲3.1	15.8	14.3
		2024年	2024年	2024年	2024年	2025年			
		1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月			
		(見通し)							

経営上の問題点

順位	項 目	回答数	回答率	前回順位	順位	項 目	回答数	回答率	前回順位
1	仕入単価、下請単価の上昇	200	43.3%	— 1	11	生産設備の不足・老朽化	26	5.6%	— 11
2	人件費の増加	171	37.0%	— 2	12	大企業(大型店)進出による競争激化	25	5.4%	— 12
3	人件費以外の経費の増加	148	32.0%	— 3	13	事業資金の借入難	21	4.5%	— 13
4	従業員の確保難	126	27.3%	— 4	14	取引条件の悪化	16	3.5%	— 14
5	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	64	13.9%	↑ 6	15	在庫の過剰	13	2.8%	↑ 16
6	需要の停滞	61	13.2%	↑ 7	16	購買力の他地域への流出	11	2.4%	↑ 18
7	購買ニーズの変化への対応	60	13.0%	↓ 5	17	在庫の不足	10	2.2%	— 17
8	新規参入者の進出や同業者の増加	52	11.3%	↑ 9	17	代金回収の悪化	10	2.2%	↓ 15
9	金利負担の増加	42	9.1%	↓ 8	19	生産設備の過剰	0	0.0%	— 19
10	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	27	5.8%	↓ 9					

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。